

6年生

車いす・高齢者疑似体験

10月12日(木)の3～4時間目に、徳島県介護実習・普及センターから、2名の先生方をお招きし、「車いす・高齢者疑似体験」の出前授業を行いました。

「車いす体験」では、車いすの操作方法や介助の方法を教えてくださいました。子どもたちは、車いすを利用する側と介助する側の両方の立場に立って、学習を進めました。



動き始める時や止まる時、段差を越える時など、声かけをしながら、車いすを操作することで、乗っている人が安心して、車いすを利用できることが分かりました！



「高齢者疑似体験」では、装具を身に付けることで、右半身が不自由なお年寄りの方の身体を体験しました。また、ヘッドホンや色付き眼鏡も利用することで、耳が聞こえづらく、特定の色が見にくい状況の体験も行いました。



ひざや腰が曲がった状況での階段の上り下りは、怖さもある上、体力的にもきつかったようです。近くの人々の声も聞き取りづらい中、不安な気持ちを少しでも軽くするためには、介護の技術はもちろんですが、相手意識をもった思いやりのあるサポートが大切だと身をもって経験しました。